

自分が書かなければ、
誰にも聞こえなくなる。

記者白築の机は島根県庁舎の片隅にある。
島根県の行政や政治に関わることすべてが担当だ。
知事、議員、担当課に取材をする、議会を傍聴するなど
人の声を聞くこともあれば、予算案などに目を通す、
関連する国の施策もチェックするなど
下調べにも時間を割き、記事の精度を上げる。

以前は東京で国会を担当していた。
国会議員は忙しい。質問する時間もない。
議員のよく行く場所で待つ、自宅を訪ねるなど、
一言をもらうために数時間待つこともざらだった。
短時間で核心に迫るためには、長時間の準備が必要だ。

議員や知事などに一般の人が尋ねることは難しいが、
自分には幸運にもその機会がある。だから、労力は惜しまない。
そうまでして伝えたいことは、山陰がどうなっていくかということだ。
聞こえにくい声を記事に書き、解像度を上げること、
自分たちの住む町のこれからが想像できる。
だから、愛着も湧く。問題意識も持つてもらえる。
地元のために、今日も現場で考え続ける。

新聞を配ることは、気を配ること。